

はなだより～ガーベラ～

気温も下がり、秋本番といった雰囲気になってきました。空も澄み渡って綺麗で、過ごしやすい季節ですね！今回は10月の誕生花にもあり、開花期を迎えるガーベラについて紹介いたします！

ガーベラは、春と秋に花が咲く多年草です。カラーパリエーション豊富で、どのお花屋さんでも年中用意されていると思います。切り花やフラワーアレンジメントとしても定番のお花で、プレゼントにも大人気ですね！

【ガーベラってどんなお花??】

ガーベラとは、キク科・ガーベラ属に分類される花の総称です。小さく細長い花びらを水平に咲かせる花姿が特徴です。花の色は赤、ピンク、白、緑、黄色、オレンジなど様々で、フラワーアレンジメントや花壇にも多く使われています。

【希望・常に前進・前向き】

これはガーベラ全体としての花言葉です。とてもポジティブで素敵な花言葉ですね！目標に向かって頑張っている方、元気になってほしい方へのプレゼントにおすすめです！

【色別の花言葉】

ガーベラの花言葉は色別にも意味があります！

- ・赤《神秘、燃える神秘の愛、前向き、チャレンジ》
- ・ピンク《熱愛、崇高美、童心にかえる、思いやり》
- ・白《希望、律儀、純潔》
- ・黄色《究極美、究極愛、親しみやすい、優しさ》
- ・オレンジ《神秘、冒険心、我慢強さ》



どの色を見ても、ガーベラにはネガティブな花言葉がありません。どんな方にどんなシチュエーションで贈っても喜ばれるお花ですね！

誰かを応援したり勇気づけたい時、新しい一歩を踏み出す時、記念日や大切に想う人へ、花言葉を添えてアレンジメントや花束をプレゼントしてみたいかたがでしょうか。

フラワースペースデザイン部

四国へんろ道

【ちょっと寄り道 ～新四国曼荼羅霊場 曼荼羅大祭～】

皆さん新四国曼荼羅霊場と呼ばれる八十八社寺をご存知でしょうか？1989年に四国の代表的古刹など八十八社寺が神仏の力を集結し、曼荼羅の世界を作り上げた神仏合体の霊場だそうです。

9月16日(土曜日)に曼荼羅大祭が執り行われると聞き、新四国曼荼羅霊場3番札所であります西条市小松町の「清奈寺(せいらくじ)」へ休日を利用して行ってみました。

色々な催し物があると聞いていましたが、想像以上のものでした。観光バスで四国中から信者さんが集まり、屋台も出ています。本堂では「お砂踏み」ができるようになっており、友人と一緒に回らせて頂きました。お砂踏みとは、八十八社寺全ての砂を集め、それを1番札所から順に88番札所まで踏めば、八十八社寺を回った事になるといわれるものです。



私が一番楽しみにしていたのは「護摩焚き」です。当日はあいにくの雨ではありませんでしたが、燃え盛る炎の中に数人の僧侶が次々と護摩を投げ入れる様は圧巻です。全ての護摩を納めた後、灰を崩してから新四国曼荼羅霊場3番札所である極楽寺の住職が灰の中を渡ります。その後、無病息災等色々な願いを込め、信者さんが次々渡っていきます。

今までは、テレビや雑誌で断片的に見ていた「護摩焚き」ですが、初めて全てを観る事ができました。約1時間に渡る行ですが、古来の歴史を感じ、それが受け継がれている事を素直に素晴らしいと思いました。

仕事柄、お寺様とは葬儀を通して関わらせて頂く事が多いのですが、このような機会に恵まれ、私の知らなかった一面を拝見させて頂きました。新四国曼荼羅霊場…興味のある方は、八十八社寺巡ってみたいかたがでしょうか？



宮田昌美

参加
無料

大好評

終活 セミナー

定員
50名

※定員になり次第締め切りとなります

来場記念
プレゼント
有り!!

【終活】とは…
人生の終焉を考えることで、
今をより良く自分らしく生きていくための活動です。
元気なうちにしっかりと考え準備して、家族や身近な人に伝える活動です。

日時

11月12日

11:00～12:00

【セミナー内容】
『相続について』
講師 司法書士法人やまびこ
司法書士 進藤 謙

場所

ドリーマー中萩葬祭館
新居浜市本郷1-14-20
TEL 0897-66-1900

お問合せ及び参加申し込みは
フリーコール **0120-44-5880** まで

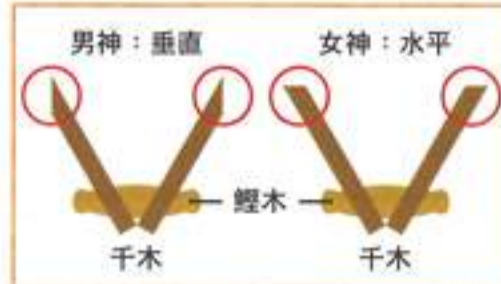
石川 暁史

役に立つ葬儀の話 Vol.34

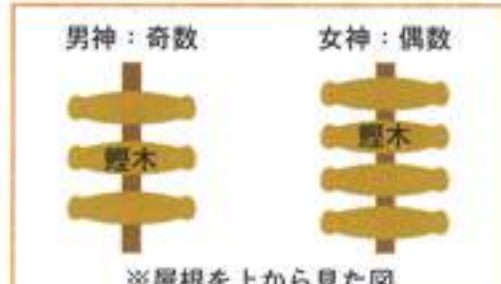
先日、担当したお客様から教えて頂いた事がありました。その当家は神社神道のお家で、神社のお祀りしている神さんには、男(おとこ)神さんと女(おんな)神さんがいて、本殿の屋根を見たらその神社が祀っている神さんが、男神か女神か一目でわかるというのです。寺の伽藍で宗派が分かるように、神社にもあるのは初耳でした…。この仕事をしていてお聴ずかしいですが…(^_^;)



屋根の上の両端に、角の様なものが付いているのを見た事がありますか？この部分は千木(ちぎ)と呼ばれ、先端が斜めに切れている部分の向きに意味があるというのです！地面に対して垂直に切られているのは男神で、水平になっていれば女神だそうです。



千木の間に丸太の様な棒の数にも同じような意味があります。鯉木(かつおぎ)と言うそうで、名前の由来もその名前の通り鯉節に似ているからとか。数を数えて奇数だと男神、偶数だと女神、という訳です…ご存知でしたか？



皆さんも神社に行かれるときは是非、拜殿・幣殿・本殿を見ながら参拝されてみてください。

まほろば

第46号



株式会社ドリーマー
ご葬儀かわら版

0120
44-5880



佐伯政俊